

新規営業で飛び込んできた銀行員から「融資の検討をさせていただきたいので、過去三期分の決算書を頂戴できますか」とお願いされた経験をお持ちかと思います。

なぜ、銀行員は三期分の決算書を求めるのかご存知でしょうか？

彼らは決算書进行分析の際、直近一期分だけ分析して企業の財務状況の良し悪しを判断することはありません。

必ず3年、多いところでは10年分の決算書の数値を横並びにしてトレンド分析をしています。これは直近の決算書だけ上手く仕上げ、つまりは粉飾して、銀行からお金を借りようとする企業が多いからです。

一期分をごまかすことができても、過去3年分の推移を眺めれば、そのごまかしは簡単に見破ることができます。

例えば、売上高はほぼ横ばいで推移しているのに売掛金や棚卸資産が増えていけば、まずは粉飾を疑います。

他にも、売上高は上下しているのに、なぜか税引後当期利益は数十万円で低空飛行していたりします。

赤字にすると銀行がお金を貸さなくなるし、でも、黒字にして税金を払わされるのも嫌だし、そんな社長の想いがこういった現象に表れています。

ただ、100万円未満の黒字の会社で粉飾していない会社の方が少ないことを銀行員はよく知っています。

そこで皆さまにお勧めしたいのが、今期の決算書がある程度出来上がった段階で必ず過去3期分の決算書の数値と横並びにして分析した上で、銀行員に怪しまれる箇所が無いかを確認することです。

突然銀行員から突っ込まれると、やましいことを全くしていなくても、慌ててしまい、それが銀行員の不信感を買ったりすることがあります。

事前に突っ込まれるだろう箇所が分かっているならば、リラックスして銀行に決算説明に行くことができます。

経営者の方はどうしてもその期・その期に集中しがちですが、銀行交渉をスムーズにするためには、銀行員と同じ目線で決算書を見られるようになることが大切です。